第９回　第１分科会会議録（概要）		場　所	新宿区役所第一分庁舎 ７階研修室
日　時	平成 17 年 10 月 31 日（月） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 45 分	記録者	【学生補助員】 雨森 美妃　守田哲
		責任者	区事務局（菊地、並木）

会議出席者：38 名
（区民委員：27 名　学識委員：2 名　区職員：7 名　傍聴者：2 名）

■配布資料

① 次第
② 第８回会議録
③ 各グループ発表資料
　・「小・中学生グループ」資料
　・「乳幼児グループ」資料
④ グループ発表に対する意見・提案カード（小中学生、乳幼児）
⑤ 平成 17 年度　新宿区区民意識調査（速報版）
⑥ 平成 17 年度　行政評価実施結果報告書　施策評価編

■進行内容

１　本日の進め方
２　「小・中学生グループ」発表・質疑・学識委員からのコメント
３　「乳幼児」発表・質疑・学識委員からのコメント
４　事務連絡

■会議内容

【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、〇：区職員

１．本日の進め方

〇　：（菊地）

みなさんこんばんは。時間となりましたので始めさせていただきます。最初に事務連絡です。その後に発表を始めます。最初に配布資料の説明をさせていただきます。

・　新宿区民意識調査 速報版

20 歳から 80 歳の方を対象に、2500 人の方に意識調査をさせていただきました。現在、クロス集計による分析もしていますが、とりあえず、速報版ということで本日お配りします。第１分科会に特に関係がある部分は、36～40Ｐですので目を通しておいてください。

・　平成 17 年度行政評価実施結果報告書 施策評価編

これは平成 16 年度に実施した新宿区の第三次実施計画をもとに施策の評価をしました。この施策評価は第三次実施計画事業を評価した上で、施策ごとに評価したものです。施策評価は全員にお配りさせていただきますが、事務事業評価編は、かなり厚い冊子ですので、区役所地下１階の交流の場に置くとともに、本分科会分として２冊用意しています。興味のある委員の方は、ご覧ください。

・　公園づくりワークショップ参加者募集
福祉部子ども家庭課の関原主査から説明があります。

○：（関原）
こんばんは。子ども家庭課の関原です。このワークショップは、大人と子どもの意見を公園づくりに反映させようという事業です。今回は、「しんかいばし児童遊園」の改修についてのものです。是非、皆さんご参加下さい。どうぞよろしくお願いいたします。

○（並木）：
それでは発表をお願いします。

２：グループ発表・質疑

①　小・中学生グループ

●：司会（親教育グループ　　田谷）
小中学生グループの発表です。それでは発表を始めて下さい。

発表概要

●：発表者（小・中学生グループ　野原・柳原・亀井(治)・原田）
手元の資料をご覧下さい。話すのは苦手なので、お聞き苦しい所があるかもしれませんがお許し下さい。

テーマ：『開かれた学校』づくりにむけて

取り巻く背景

昨今、非常に教育の現場は厳しい現実に直面しています。以前、テレビ番組のアンケートで、学校の先生のうち 85%が「仕事がキツイ」という感想を漏らしていたのが印象的でした。ところで、私たちは、グループ会議を 5・6 回行い、小学校の校長会にも足を運び、校長先生方とも色々と議論してきました。その中で感じたことは、教育という分野は非常に幅広いもので、私たちは、まず、小学校にターゲットを絞りました。なかなかメンバーの時間が合わず、議論する時間をロスすることもあったのです

が、校長会との意見交換は、非常に有意義なものに終わりました。校長会との意見交換の議事録は資料の最後に付いていますのでご参考にご覧下さい。私たちの結論として、テーマは「地域に開かれた学校づくり」としました。

学校教育の歴史

資料には、大きな転換となったものを挙げました。その中でもいくつかを挙げますと、以下のものです。

61年　　全国一斉学力テスト
70 年代　落ちこぼれ、受験戦争が社会問題化
98年　　総合的な学習の新設～ゆとり教育の推進～

現状と課題（こどもの立場から）

少子化による教育環境の変化

・　親の過干渉→習い事、塾による時間の制約
・　多様な友達との関わりの少なさ⇒社会性（協調性）が育まれにくい。

都市型社会における家庭環境の変化

・　親の仕事の多様化による生活リズムの乱れ
・　隣近所との関わりの希薄化
・　繁華街等から派生する犯罪被害の恐れ

模索する教育改革による学校教育の変化

・　教育改革のスピードの対応ができない現場（教師）によるしわよせ
⇒研修や事務等の仕事の増加⇒教師が子どもと向き合う時間の不足
⇒教師の質の低下

提言①「地域教育力アップの人材バンク」づくり

・　スクール・コーディネーターの活動の見直し
・　学区を越えた人材の情報交換の必要
・　インターネットで、ボランティアの登録・検索・要請ができるシステムづくり
・　人材の運用については、校長や学校評議員会で審査

こうした提言は、現在のシステムが非常に不安定という問題意識によるものです。

提言②子ども居場所づくり事業の展開

「〇〇スクール」活動（放課後や土曜日）

・　小学校の空き教室を使い、ボランティアが子どものニーズに合わせた活動を補助する。

提言③　学校評議員制度の見直し

・　人選に偏りが出ないようにする

・　学期一回の会合を月一回に増やす

こうした提言は、出席者が固定されていて、活発ではない。更に、学期に１回しか集まる機会がないという問題意識によるものです。

新宿区は次世代育成支援計画を実行しようとしていることには敬意を表しますが、実際の制度は全体的に縦割りの弊害が生じて、全て単発であり有機的に動いていないと思います。文部科学省からも色々と問題提起があると思いますが、そういうことは区のレベルから少しずつ解決していかなければなりません。子どもはモルモットではありません。中央教育審議会で審議時間を 100 時間も費やしたとありましたが、少なすぎると思います。子どもをもっと大切にすべきだと思います。

質疑応答

●：資料を見ますと、評議員制度のところで偏りがあるのではないかという指摘が何ヶ所か見られるのですが、これは実際に学校へ訪問し感じたことだと思います。そこで具体的にどんなことが問題と感じられたのでしょうか。

●：小・中学生グループ

評議員は高齢者の人が多く、実際には校長先生の話を一回聞いて終わりという学校があります。他には、若い人やＰＴＡが入って行けないという実情が多々見られました。

●：それを踏まえて、こういうふうに募集すればよいという提案は議論の中でありましたか。

●：小・中学生グループ

学校評議員制度が発足して 3 年間。それなりに地域に公開していくという意義があると思いますが、実情は色々な提言を聞くというよりも、学校側が一方的に了承を取り付けるという形になっていました。したがって、教育問題について提言できる方がいれば良いとか、教育問題に精通する勉強ができる時間があれば良いなと思います。

また、評議員の方も元ＰＴＡだったり町内会長だったり固定的になっています。もっと学識経験者の方が入れれば良いと思いました。

●：参考資料の学校訪問報告の中に、四谷第四小学校の文部科学省キャリア教育推進指定事業実践協力校というのがありまして、驚きました。小学校の頃からキャリアになるための教育をしているのですか。詳しく教えてください。また、どう感じられましたか。

●：小・中学生グループ

短時間で見て回っただけなので、よく分かりませんでしたが、実践的なことを教えるのではなくて、低学年から徐々に自分の夢や目標を考えさせるような教育をしています。他には、小学校で培われるべき社会的協調性を培うことで自分の小さな夢から大きな夢へ膨らますというようなことをしています。実際にすぐ職業教育につながるということではないようです。そもそも、自分の意思で、自分の将来を決めるという精神を養うのが狙いのようです。ここでは平成16～18年度の３年間の計画を通して、将来、生徒が自分の意思を決定していくためにはどうすれば良いか等のテーマをもって、先生方が取り組んでおられました。

●：それを見てどう思いましたか。

●：小・中学生グループ

ひとつのテーマをもって子どもたちと接していこうという先生方の努力や一生懸命さはすばらしいと思いました。

●：私は四谷第四小学校の生徒の保護者です。学校評議員もさせていただいています。生徒たちは特別に、キャリアと身構えることなく、目標は６年生の時に自分の将来の夢を語れるようになることです。そんなに難しい教育をしているわけではありません。

●：地域で学校を支え、地域の教育力を高めていこうという提言は良いと思いました。それと平行して、小中学生になると社会的な考えも持つようになります。彼らをまちづくりやコミュニティーづくり等へ参画させることによって、子どもたちの教育につながるし、地域の活性化にもつながると思います。そういった観点からグループでお話したことはありますか。

●：小・中学生グループ

その点については、環境グループで検討されているので私たちは、子どもの教育力アップということに焦点を絞って考えました。

●：参考資料にある学校訪問の議事録ですが、西戸山の「学校図書管理について」とあります。これは小学校のことですよね。生徒の図書室に対しての希望は聞かれましたか。

●：小・中学生グループ

これは私の個人的な意見を書いたものなのですが、児童書の管理については、今も学校では手書きで行われています。つまり、どんなものが多く読まれているかということは分かるのですが、学校間で、例えばあの小学校にこの本があって、この小学校にはないということは分かりません。パソコン等で図書の管理を行い、学校間や区の図書館をつなげれば把握できると思いました。これを実施すべきなのではないかということです。

●：今、子どもの本離れが問題になっています。どうして子どもが本に興味をもたないかということだと思います。親からこの本を読めといっても読まない。新宿区の図書館では児童書は児童書コーナーにある。ここを利用する子どもは少ないと感じる。図書の貸し出し状況をコンピューターで結んで把握するというのは、「子どもの図書に対

するニーズがないのにどうかな」と思います。

●：小・中学生グループ

子どもが借りたい本がそこの図書室にない場合に、他の学校の図書室や区の図書館と連携を取って、もっと効率的、かつ有意義に本を貸し出しできるのではないかと考えています。

●：区立の図書館はそういったネットワークがあるのですが、そもそも、子どもが本を読みたくなるように仕向ける施策が必要だと思いました。

●：初歩的な質問ですみません。学校選択制についてお聞きしたいのですが、選択する判断基準がよく解らない。結局、親は何を基準に判断すればよいのですか。誰かがランク付けをするのでしょうか。こうした制度づくりができないうちは、結局、地域を破壊してしまうだけなのではないでしょうか。

●：小・中学生グループ

おっしゃるとおりです。私たちも同意見です。学校選択制はいずれなくなってしまうという意見まで出ました。実際、公立の小学校に進んだ後、私立の中学校に進学してしまう生徒が多いわけで、選択制の意義がなくなっています。

●：意見としてお話します。私の先輩が中学校のスクール・コーディネーターをしていまして、子どもの居場所づくりやスクール・コーディネーターについて色々と聞いております。こうしたものは、先に制度づくりができてしまって、予算を組まなければならない。要するに、制度ありきでニーズありきではないのです。何か無理やりやっている感があります。それから、学校の先生への負担ですが、その対策として、土日曜日の事業にはボランティアの先生に頼って、非常に行き当たりばったりのように感じます。つまり、制度として全体に非効率的で民間企業ならば考えられないことをやっています。行政のセクショナリズムが横行して、現場の意見がしっかりと反映されていないのが問題です。担当を越えたミーティングをするべきだと思います。

●：小・中学生グループ

ご指摘のようなケースがありました。

●：先ほどの発表の中で、「中央教育審議会での審議時間が 100 時間も費やした」ということに、少ないと感じたと感想を述べられていましたが、ひとつの問題に 100 時間の審議は頑張ったと感じました。行政は仕事が非常に多岐に渡っているわけですから、100 時間は頑張ったほうです。そもそも、行政に頼るよりも自分たちで何が出来るかを考えたほうが良いと思います。

●：小・中学生グループ

学校と地域の塀が高く、学校で何が行われているか全く知らない人が多い現状があり、私たちはその現状を知る中で、何か行動できれば良いなと考えています。しかし、私たちの施策もまだまだ具体性がなく、中間報告的な意味合いで理解していただければ幸いです。また、本日出席できなかったグループの三浦委員の意見も参考資料に付

けておきましたので、お読み下さい。

　ところで、この中で学校のボランティアに携わっている方はいらっしゃいますか。三人ですか。それでもまだまだ少ないと思います。学校のほうでも、今、学校で何が行われているかの発信の仕方も考えないといけないと感じました。

●：意見として発言します。私は四谷第四小学校の生徒の保護者であり、四谷中学校の生徒の保護者でもあり、育成会にも入っています。第四小学校では、学校評議員にも参加しています。小学校では現在、新宿区でスクール・コーディネーターの方々が中心となって、居場所事業として、「居場所ルーム」という事業を行っています。お茶の点てかたですとか、地域によって色々なことをやっています。予算もついています。区としては、今後はこの居場所事業とスポーツ交流会と校庭開放事業を一本化する意向があるそうです。

　また、スクール・コーディネーターによる子供の取り合いという問題もあります。企画した事業に、子どもがなかなか集まらないというのが現状です。また、学校の校長先生の裁量で終わってしまうものも多々ありますが、私たちの学校では、評議員の意見が反映されたこともありました。地域の人間が学校に参画するためには、校長先生の理解が重要だと感じます。学校が地域に開らかれたものになるのは、大変難しいことだと思います。「地域で協力できるものは具体的にこうです」といった提案を、実施の１年くらい前にしていくことが必要だと思いました。

◎：（汐見）

　学校づくりに関しては、基本計画でどこまで触れるかですが、文部科学省も様々な提案をしています。また、今の学校が古い体制であることも国は自覚しています。教員の給与も改革しつつあります。これからは、教員の給与は一般財源として支給されます。また、学校の統廃合も相乗効果で悪い影響を及ぼすこともあります。そうなると、教員給与の地域間格差も合わせて出てきます。昇給にも波及してくるでしょう。それに対して、文部科学省は猛反発してきたわけですが、今の情勢だと国会を通過しそうです。

　ところで、キャリアアップ教育に関しては、経済産業省も絡んで様々なプランを立てています。そういう背景を踏まえ、我々も勉強していかなければならないと思っています。小・中学生グループでは、まずは先行する成功事例を研究したり、現在の教育行政のあり方について提言したりすることで、新宿区独自の計画を立ちあげてほしいと思います。例えば、図書館の話がありましたが、現在、最も予算が減らされている事業、減らしやすい事業は図書館です。例外として、三鷹市などは逆に増加させています。やはり、学力の基本は読む力です。ＯＥＣＤの学力ランキングの日本の落ち方は顕著でした。図書館はインフラですが、ソフトの問題としてはフィンランドが実施しているように、公共図書館に子供が授業を受けに行くとか、地域ぐるみで読みきかせ運動を行うといったことが大切なのです。この結果、フィンランドでは、学力ラ

ンキングが非常に高いわけです。こうしたような、新宿区独自のケースを考えてほしいと思います。

学舎融合という言葉が叫ばれていますが、千葉県習志野市の秋津総合学習センターでは、主婦がバレーしたり、図書館が開放されていたり、小学校と地域がまさしく融合されているのです。しかし、こうしたことは住民のほうから動かないことには何も変わりません。区民が区民として行政にしっかり提案することなくして、何も変わりません。また、学校選択制に関しても様々な意見を聞きながら進めていかなければなりません。先行事例があるのなら、それを研究して血の通った提案をして下さい。教育には遠慮しがちになってしまうという意見がありましたが、そんなことはないと思います。むしろ、教育に参加すること、それ自体に教育の意義があるわけで、その点だけは重々承知しておいて下さい。

②乳幼児グループ

乳幼児グループ発表

●：司会（環境グループ　宇野）

それでは乳幼児グループの発表をお願いします。

＜発表概要＞

●：発表者（乳幼児グループ　小原・工藤・末吉・布施・小林・酒井）

それでは、乳幼児グループの発表を始めます。

乳幼児グループは、毎回、課題抽出だけで終わってしまうというグループでした。それというのも、乳幼児の課題が出る中で、妊娠中を含め、幅広く課題を抱えているわけで、色々な話題が出まして意見がまとまりませんでした。それは保護者のライフスタイルによって子どもの居場所が決まってしまうからです。つまり、乳幼児の頃というのは、保護者が共稼ぎかそうでないか、あるいは、保育園か幼稚園かに分かれてしまい、子どもの発達の中では、特異な時期ではないかということです。

こうしたことを踏まえまして、資料にあります３点の現状と課題に集約をして、この会議では、提案したいと考えました。

まず、１番目の「子育て経費の家計圧迫」です。背景をお話していると何十分もかかってしまうのですが、朝日新聞に載っていました記事によると、以前は子育て支援に望むものの第一位は「保育園の充実」でした。しかし、昨年の調査では、具体的な子育て支援を子育て中の親は求めているというもので、今、非常に経済状況が厳しい中で、子育てをしている親が「もう一人産みませんか？」と言われても、もうこれ以上、子育てに係る経費を出す余裕がないという切迫した状況があります。

次に、２番目の「子育て支援策に欠けているもの」です。私たちは新宿区の１１箇所の乳幼児施設を見学してまいりました。偶然なのですが、１回目が牛込地域で非常

に乳幼児向けの子育て支援の施設が充実している地域でした。そして、２回目が北新宿、淀橋地域と言ったほうが良いのでしょうか、そこは乳幼児向け専門の子育て支援施設がひとつもない地域で、そのふたつの地域を見学して参りました。

そこで私たちが気づいたことは、その乳幼児向け子育て支援施設がひとつもない地域で、お母さんたちが自主グループをつくって自分たちで頑張っているということがありまして、実はメンバーの中には子育て支援を仕事にしている人間もおります。一体、子育て支援に対して大切なことはなんだろうという話になった際に、結構、支援を受ける側が受身になっている支援を援助者がしているのではないのか。そして、子育てをしている最中の親は、様々な力を持っているのですが、それを引き出せないでいる支援で終わっています。「してもらう支援」だけでなく、「自分たち当事者も力を出していく支援」を考えなければならないことが２つ目の課題です。

そして３番目が「地域活動における乳幼児活動の少なさ」です。乳幼児の保護者自身が同じ年齢の乳幼児の親としか付き合いがない事例があります。例えば、第１分科会には、保育園に通わせている親も幼稚園に通わせている親もいるのですが、保育園に通わせている親は幼稚園の実態を知らない。幼稚園に通わせている親は保育園の実態を知らない。つまり、親自体も自分のライフスタイルに縛られている。したがって、広がりを持った地域の人たちとの交流がないことになります。そして、それを応援してくれる地域自体の働きかけもないのです。

私たちのグループは、この３点を課題として、解決策を考えることになりました。

解決策の提起としては、

１．子どもの教育や保育の機会均等・必要な育児費用負担の平等性を求める
２．親自身がまず知り合い、助け合い、子どものために連帯しあえる支援
３．地域が、子どもと親と住民が触れ合う機会を作っていく
４．以上の３つを実践するために、当事者と地域、当事者だけでなくそれを支える区内の行政職員や企業・地域で活動する人に「子育ては子どものいる人の仕事じゃないか」ではなく、社会全体で考えていくのだという「子育ての社会化」を理解してもらう

この４点を以下具体的に発表してまいります。

子どもの教育や保育の機会均等・必要な育児費用負担の平等性を求めるとして、「フィンランドに見習え！子育て世帯の機会均等、平等化」を基本としました。

１．就学時に限定されている医療費の免除を１８歳まで延長を要望するものです。仮に全額免除が無理であっても、１２歳までは１割、それ以上は２割など、段階的な措置など工夫が可能ではないか。また、国の政策ではあるが児童手当の見直しも必要です。これに関しては平成１８年度から新宿区独自の事業として、国制度に加えて中学３年生まで延長されるそうです。

２．幼稚園は私立と公立の価格を同額にするというもので、私立幼稚園の助成制度では、区立の月額６千円に、私立は絶対にかなわないため、私立を圧迫するという理由で３年保育も実地できない。適正な保育料金を設定し同額にすれば、利用者は保育の質で選ぶことになり、本当の意味で双方が切磋琢磨できるのです。

３．保育園の待機児童解消という点につきましては、新宿区の場合は０歳児の定員は広いのですが、５番目に挙げた３歳児の問題があり、３歳になってから保育園に入れようと思うと、０歳になって入れようとするよりも、もっと定員がなくなっているという現状があります。現在、無認可保育園を認証保育園に格上げすることで、待機児童を解消しようという動きもありますが、それ以前のもっと本質的な改善をしていくべきではないでしょうか。また、現在、新宿区の愛日幼稚園で幼保連携の保育を始めています。加えて、平成１９年度を目指して、四谷第一小学校の敷地内に本格的な幼保園をつくるという、幼稚園と保育園の連携を目指した動きがあります。私もその動向に関心を向けているところです。しかし、その２箇所が花火のように上がって、それ以外の幼稚園、保育園はどうなるのか。他の園は置きざりにされている感じを区民としては感じているところです。そのような、モデル的な、大々的な取り組みももちろん必要ですが、近隣の幼稚園、保育園が連携して、就学前の子供たちを合同で保育するというような、できるところからの幼保連携も期待したいものです。

４．３歳児の居場所づくりとは、行政の子育て支援は３歳児未満を対象としていて、３歳児以上は幼児サークルや子育てひろばなどの対象年齢から外れてしまいます。加えて、保育園も３歳児はなかなか入れない現状であり、幼稚園も３年保育をしているところは少ないのです。年齢的にも最初の反抗期を向かえ、親も子どもの言葉による意思表示に戸惑う時期で、３歳児にも支援の手が重要であると考えます。そのためには、多様で柔軟な選択肢を選べることが必要で、幼稚園は既存の保育形態にとらわれずに週１、２回の３歳児保育や３歳児のための園庭開放を設けるなどのひろば的開放の実地を要望したいと考えました。

そこで、親同士がまず知り合い助け合い、子どもたちのために連帯し合える支援ということで、「親の子育て力ＵＰを家族・地域で応援しよう！」という題で提案したいと思います。

まず、幼稚園の父母会やＰＴＡ活動の支援を活性化するということです。現在は、昔と比べて、全体的に親の子育て力が低下しているのは確かだと思います。

そういった中で、子育て講座、親子講座なども必要と考える子育てのテーマ、以前はもっと当然のこととしてあった、人と人との関わりの中から子育てのヒントを得たり、教えあったりするものがあったと思っています。今、保育園の父母会や幼稚園のＰＴＡなどが、積極的に活動ができない。また幼保一元化を目指した幼稚園がつくられる一方で、小・中学校の統廃合がなされているにもかかわらず、保護者同士の話し

合いが持たれずに、一人で不安感を募らせている実態が新宿区の中にあるのではないかと思っています。そのような不安を取り除くためにも、保護者会・ＰＴＡ活動をもう少し活発化し、地域の方たちとの協力の中で子育てに関われれば良いのではないかと思います。

次に、支えあいの支援、親同士、近隣同士、子育てを通しして知り合った人たちが信頼しあえば、自然と子どもを預けたり、相談に乗ってもらったり、一時保育も事業としてではなく、そういう協力体制がとれるのではないかと思います。しかし、このあたりもなかなか上手くいかず、子育てサービスへのニーズは高いが、サービスだけを安易に提供しているという実態があると思います。

最後に、お父さんの地域参加支援です。企業などが果す役割として、父親の育休を取り易い環境づくりが挙げられます。いくつかの職場ではそのような提案もしているようですが、上司との関係、仕事の内容を含め、多くの職場では、上手くいかないのが現状です。従いまして、育休をとりやい環境づくりや労働時間と賃金問題も含めて考えたいと思います。

地域の子どもと親と住民が触れ合う機会をつくるために、小学校就学前の親同士が幼稚園も保育園も関係なく、親同士の横のつながりをつくれるようにしてほしい。そうすることによって、地域への入り口にもなるし、お互いが知り合うチャンスがたくさんできます。この年齢の子どもを抱えるからこそ、親同士の連携が必要なのではないでしょうか。

私は、地域で子どもを育てようという思いを持っています。「ほんとに産んで良かった」「ほんとに育てて良かった」「新宿は子どもを育てやすい」という新宿区にどうしてもしたい。少子化を何とかしないと、「高齢化社会、高齢化社会」と言って年寄りがいじめられるから、子どもを産んで欲しいという思いでいっぱいなのです。

地域の多くの施設を見学しながら、子どもがどう育っていくかをみて、良い環境で育てていきたいという思いです。子どもの権利を主張して、子どもの権利を守っていこうと思います。親や地域がそういった思いにならないと、上手くいかないだろうという思いでいっぱいなのです。先ほど、小中学生グループの発表の際に、学校図書室の件が出ましたが、学校統廃合が行われているものですから教室や図書室が方々で余っているといったら、おかしいのですが、空き部屋になっています。それらを大いに利用して、地域の人たちがそれを利用できるようにすることをお願いしたい。単に売却するのではなく、地域のために使ってほしいという思いもあります。その点も含め、乳幼児を良い環境で育てていきたいと思います。

発表の最後に、資料を読んでいただければわかりますが、１枚資料が抜けていまして申し訳ありません。もう２項目、提案したいことがございます。小学校就学前の保護者同士の交流をひとつ提案したいということと、「ゆったり一の」のような地域住民発の居場所づくりを各地域で行ってほしいという２点を書き加えて下さい。どうもあり

がとうございました。

質疑応答

●：感想ですが、少子化の中で、「若い親が子どもを産んであげている。育ててあげている。」という、ひねくれた感想を持ちました。子どもは産んだ人が育てる。しかし、３番目の「親の子育て力アップを家族・地域で応援しよう」というところの説明は良いと思いましたが、自分では子育てしないでサービスを安易に受ける若い親に、「子どもを産んであげて、育ててあげている」と思わせてしまうのは間違いではないでしょうか。本質は親がしっかりしなければならないと思います。

●：乳幼児グループ

複雑な思いをして聞いておりました。昔は親がきちんと子どもを育てられたと思います。では、今の若い親はどうかと言う前に先日、私は新宿駅を歩いていたのですが、時間は夕方の５時頃で人もたくさんいました。そこで、ベビーカーを押しながら小さな子どもの手を引いているお母さんに出会いました。階段を上ろうとしているのですが、誰も手伝いません。たくさんの人が往来し、たくさんの男性もいらっしゃるのに男性の方は誰も手伝おうとしません。ですので、私が小さな子どもの手を引いて、階段を上ったのです。なぜ手伝いもしないのに、男性は最近の女性はわがままであるとか言われるのでしょうか。子育ての社会化が必要だと思います。私たち大人が、子どもたちによって学ばされていることをみんなで認識し合わなければならないと思います。

◎：（汐見）

今のことに関してですが、まず、第１分科会として委員の考えを一致していただきたいと思っております。

先ほどの意見についてですが、ある世代の方が持たれている考えだと思いますが、私の考えは違います。

なぜなら、子どもは親によって、すべて育てられているわけではありません。昔は母親の仕事が家の中にたくさんありました。そして、その仕事は家庭を巻き込みながら行われ、母親が忙しくてどうしても手を離せないときは子どもを外で遊ばせていました。そして、子どもたちは隣近所の友だちと遊び、そこから様々なことを学んでいました。つまり、子どもは地域社会の中で切磋琢磨しながら育っていました。これは「子育ち環境」があって成立していたものです。

しかし、現在はこれができない。よって、親、特に母親は小さな子どもを朝から晩まで何日間も見続けなければならない。これはとても大変なことであり、男性には分かりません。そういうところを見ないで、最近の女性はさぼっている、だらしがない、子ども一人も育てられないなどと言うことは根本的な認識違いです。それによって女性を責めていたら、女性はますます子どもを産まなくなります。

また、子どもを地域に放り出して育てられないという問題もあり、子どもを放り出

せる現代的な環境をつくるしかありません。

現在の子育ての特徴としては、

１．育児の家庭内化です。育児はもともと地域社会で行うものであるが、今は行われていません。

２．育児の女性化です。昔は父親も子どもと交流をよく取っていたが、今、父親は育児に参加していません。

３．育児の孤立化です。物が豊かになったにも関わらず、子育ての負担が増加しており、これ以上の負担では女性が現在よりも子どもを産まなくなってしまいます。

私たちは、こうした状況の中でも、子どもを産もうとしている女性に社会としてエールを送るべきなのです。男性が女性の味方にならないと何も変わらない。叱咤激励をするだけでなく、心から共感しながらエールを送ることが必要なのです。

そこで、乳幼児グループのプランに戻りますが、これは大変おもしろいと思います。新宿区らしいものです。特に３歳児に注目した点は大変すばらしいことです。この部分のプランをもっと練っても良いと思います。また、全体的なプランについても、もっと練って、洗練させる必要があると思います。

●：私は３年保育について幼稚園、保育園の両方を経験しました。保育園に通わせているとき、大変悲しい思いをしたのですが、保育園は夕方４時のお迎えと６時のお迎えがあります。４時に迎えに来てもらえる子どもたちはその後、友だちと遊べます。しかし、６時のお迎えの子どもたちは遊べません。また、翌日は、やはり前日にその友だちと遊べば、「昨日、だれだれちゃんと遊んだ」という話になると思うのですが、６時にお迎えの遊べなかった子どもたちはそこに入れなくなります。

幼稚園では２時にお迎えになりますので、午後４時、５時まで公園で、親子で遊べます。また、そこで、母親たちは他の子どもの母親と話ができ、交流が取れ、これはとても貴重な経験になります。働く母親たちに、そういう経験ができる場がないというのは非常に残念に思います。そういう場があればと思います。

また、先日、幼保園の説明会に行ってきたのですが、そちらは午後３時まで迎えに行けば良いそうです。また申請すれば延長保育も可能になります。しかし、この延長保育を利用して、今まで２時にお迎えに行けた母親たちがこれを利用し、空いた時間を気分転換の時間として使う。これは良いことですが、子どもにかかる時間が少なくなってしまうと危惧しています。子どもと一緒に育む時間も大切で、それを含めて考えていただければと思いました。

●：乳幼児グループ

保育園に通わせている多くの母親は働いており、挨拶程度の交流しかないという現状があります。そこで私たちは保育園、幼稚園の保護者会活動に注目をしました。保護者会は地域の子どもたちについての問題や園の運営等に関する情報提供や意見交換を行う場として有効と考えています。そこで、今まで交流のなかった母親同士での交

流が生まれ、また地域の子育てに目を向けられるきっかけになるのではないかと考えています。そしてそれは、子育ての社会化の活性化につながるのではないかと思います。今の親たちはこういうことを億劫がる親が多いです。園としても、保護者会開催中は、子どもを預かる等のバックアップが必要になってくると考えます。

また、資料には書いてありませんが、小学校就学前の保護者の交流も必要だと思います。小学校に入学してからＰＴＡという大役にぶつかる前に交流をしておくことはとても有効だと思います。これらをもっと盛んにし、先ほどの批判にも答えていけるような力をつけていけるようにすることが必要です。

●：この問題は、１．精神的問題、２．生活費の問題、３．生活費の問題を踏まえたうえでの行政側の問題、という３つに分けられるのではないかと思います。子育てをしながら仕事をするということには、様々な問題があります。これは企業の理解を得ない限り、良い子育てはできないのではないでしょうか。このような問題をはっきり分け、具体的にした方が良いと思います。

●：乳幼児グループ

企業にも、もちろん直接、話をしたいのです。しかし、これは大変なことで簡単にはできません。そう考えると「ゆったり一の」という事業はすばらしい。これが新宿中にあったら本当に良いと思う。こういうものをもっとつくってほしいと思います。

◎：（杉山）

資料にある「親の子育て力ＵＰを家族・地域で応援しよう」の中の「支えあい支援」の２つ目、「サービスを利用しなくても解決できるしくみづくり」の部分で、これは親を支援の受け手にしないための支援と思います。私もこれについてはいつも考えていますが、とても難しい。この「しくみづくり」の部分をもっと具体的に聞かせていただきたいということが質問の１点目です。

２点目としましては、乳幼児期の子育てが今、注目され、さまざまな事業が行われています。そこで疑問なのですが、これらを地域の善意に頼っていて良いのかということです。最後の「しくみをつくる人々へ」のところで男女共同参画条例が挙げられていますが、女性が働く場合、乳幼児の子育て支援が子育ての社会化につながるとあります。支援だけでなくエンパワーメントの支援も必要です。そういった形で仕組みとなっていかないものかと思うのですが、どうでしょうか。

●：乳幼児グループ

先ほどの報告の中で地域によって、そのような事業をやっている地域とやっていない地域があります。元保育士のノウハウを生かして、お母さんたちが中心で赤ちゃん体操を行っています。これは女性団体が受け皿になっています。そこへ、子育てが初めてのお母さんが訪れ、悩みに対してアドバイスをしているというサークル的な集まりがあります。これは地域センターや児童館等を借りて行っています。また、すべてお母さんたちの自主運営になっています。つまり、支援がなくてもお母さんたちがが

んばって実施しているのです。これを区が認めてくれれば良いと思います。

母親は自立することが大切だと思います。支援やサービスだけを受けるお客様では、お母さんたちは不安なのです。自分たちでコーディネートをし、本当の意味で親としての教育力をアップすることが必要なのです。

●：学識委員の話や子育てにおける時代背景等、よく分かりました。

それを踏まえて、子育ての意義や重要性を社会に広げていけるような計画があった方が良いのではないでしょうか。

●：乳幼児グループ

杉山先生からの仕組みづくりを絡めて話したいと思います。

今、子育て支援として、様々な施策が行われています。新しいハコ物や事業が出てきていますが、出てくるだけでそれらが連携していないというジレンマも同時に感じています。明確な仕組みをつくるより、今ある仕組みをもう少し循環させる見直しが、実は大切で、即効性があると考えています。したがいまして、私たちのグループで、新しい事業としては３歳児の居場所だけです。

◎：（杉山）

最後に、品川区のＮＰＯ「おばちゃんち」の話をしたいと思います。

ここは若いお母さんの教育機関として側面的な支援をしています。世代間の違いで歩み寄れないでいる親たちの子育て支援の場であります。ですから、お母さんグループ単体では招待できない子育てに関連する専門家も招いて勉強をしています。また「てとてとねっと」というポータルサイトを作成したり、「預かりあい　あいあい」というものをつくって、お互いの子どもの預かりあいをしています。これは、昔はできたものが、今ではできなくなったことをこのような形で実現しているのです。先ほどの話も、この発表の中に入れて提言として出していけたらと思います。

また、三鷹市では行政主導ですが「子ども支援ネットワーク」というものが充実しています。これを事例として勉強していただければと思います。

●：司会

ありがとうございました。時間も過ぎましたので、これで終わりにします。

○：（菊地）

（事務連絡）

１．次回日程について

第 10 回

日時：１１月１０日（木）午後６時３０分から８時３０分

場所：新宿区役所第二分庁舎（旧四谷第五小学校）１階　１－⑦会議室

２．　２月 19 日に中間発表が行われます。自分の得意分野で中間発表をお手伝いしてくださる方は、11 月９日までに事務局に連絡をください。